



平成27年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年4月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 メディア工房

コード番号 3815 URL <http://www.mkb.ne.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長沢 一男

問合せ先責任者 (役職名) 管理部長 (氏名) 酒井 康弘

TEL 03-5549-1804

四半期報告書提出予定日 平成27年4月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年8月期第2四半期の連結業績(平成26年9月1日～平成27年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年8月期第2四半期	1,209	△2.9	216	△35.8	190	△42.6	89	△49.6
26年8月期第2四半期	1,245	△0.2	336	△12.2	331	△13.2	178	△21.3

(注) 包括利益 27年8月期第2四半期 91百万円 (△48.9%) 26年8月期第2四半期 178百万円 (△21.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年8月期第2四半期	8.45	8.38
26年8月期第2四半期	17.15	16.66

(注) 1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、平成27年4月1日付で当社普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行ったことをふまえ、前連結会計年度の期首に同株式分割が行われたものと仮定し当該数値を算出しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年8月期第2四半期	3,704	2,037	54.1	189.68
26年8月期	3,662	2,070	56.2	193.32

(参考) 自己資本 27年8月期第2四半期 2,005百万円 26年8月期 2,059百万円

(注) 1株当たり純資産については、平成27年4月1日付で当社普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行ったことをふまえ、前連結会計年度の期首に同株式分割が行われたものと仮定し当該数値を算出しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年8月期	—	0.00	—	24.50	24.50
27年8月期	—	0.00	—	—	—
27年8月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成27年8月期の配当予想につきましては、当社では配当性向25%～35%を基準としているものの、当社及び連結子会社の新規事業の展開に伴い、平成27年8月期における業績予想が困難であるため、決算発表時における平成27年8月期の配当予想の発表を見送ることとしております。

3. 平成27年8月期の連結業績予想(平成26年9月1日～平成27年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

平成27年8月期の業績につきましては、平成26年8月期に続き、新規事業の展開を更に加速し完成させていく予定であります。そのため、通期の業績予想に対して、実際の経営成績が上下する可能性が高く、決算発表時における業績予想の発表を見送ることとしております。新規事業展開の進捗と今期の業績に与える影響を精査の上、当該内容をふまえた業績予想の開示が可能となった時点で速やかに公表致します。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) 株式会社ブルークエスト、除外 1社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年8月期2Q	11,300,000 株	26年8月期	11,300,000 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

27年8月期2Q	648,876 株	26年8月期	810,800 株
----------	-----------	--------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年8月期2Q	10,651,124 株	26年8月期2Q	10,412,647 株
----------	--------------	----------	--------------

(注)発行済株式数については、平成27年4月1日付で当社普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行ったことをふまえ、前連結会計年度の期首に同株式分割が行われたものと仮定し当該数値を算出しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表に対する監査手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等の様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については添付資料「1. 経営成績・財務状態に関する分析」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、引き続き、円安・株高基調、雇用・所得環境の改善傾向が見られました。一方で、国内消費者マインドの弱さや海外景気の下振れなど、わが国の景気を下押しするリスクに留意する必要があります。

当社グループの中心事業であるデジタルコンテンツビジネスを取り巻く環境においては、スマートフォンの市場規模及びその保有率は、引き続き、増加傾向にあります。2014年の国内携帯電話端末の出荷台数は、スマートフォンが2,770万台(前年比5.3%減)、フィーチャーフォンが1,058万台(前年比5.7%増)となりました(注1)。スマートフォンの出荷台数は2年連続で減少したものの、出荷台数比率は72.4%とモバイルビジネスへの影響力は依然として高く、また、その保有率は各年代で前年比10%以上上昇しております(注2)。一方で、フィーチャーフォンは2008年以降で初めて前年を上回ることとなったことから、フィーチャーフォンユーザーの維持に努めつつも、配信網やコンテンツジャンルの拡大などスマートフォン対応を強化していくことが、重要な経営課題となっております。

このような経済状況の中、当第2四半期連結累計期間におきましては、当社グループの主力事業であるコンテンツ事業において、古いコンテンツは、引き続き、スマートフォンへの対応強化に注力して参りました。各移動体通信事業者のスマートフォン用公式サイトに質の高いコンテンツを積極的に投入すると同時に、「LINE占い」

「Flipboard」「Gunosy」「GREE」などのプラットフォーム提供事業者等へのコンテンツ提供による配信網の拡大に努め、AppStore・GooglePlayStoreへネイティブアプリを投入するなど売上拡大を図って参りました。また、平成27年1月27日に当社独自ゲームブランド「OBOKAIDEM(オボカイドイーエム)」の立ち上げを行い、国内外のゲームコンテンツのパブリッシング事業に強みを持つ株式会社ブルークエストを子会社化しております。コンテンツジャンルを拡充し、業容を更に拡大していくために、スマートフォン市場を牽引しているゲームコンテンツ業界に本格的に参入するための先行投資を行って参りました。さらに、O2O事業を手がける株式会社ギフトカムジャパンにて制作を進めていたARアプリやイベントアプリが完成し、システム受託やイベントの開催も含めた事業の本格展開、並びに、株式会社MKBコリアの韓国内でのコンテンツ配信プラットフォーム拡充への展開等を行って参ります。新規事業の重要性が増加したため、当第2四半期連結累計期間から連結の範囲を拡大しており、子会社等の新規事業への先行投資等、費用が計上されておりますが、当社では、引き続き、古いコンテンツのみならず、新規事業への展開を加速させて参ります。

以上の結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高1,209百万円(前年同期比2.9%減)、営業利益216百万円(前年同期比35.8%減)、経常利益190百万円(前年同期比42.6%減)、四半期純利益89百万円(前年同期比49.6%減)となりました。

(注1) MM総研の調査によっております。

(注2) IDC Japanの調査によっております。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の「コンテンツ事業」及び「ブランド事業」の2区分から、「コンテンツ事業」及び「O2O事業」の2区分に変更しております。これは、従来のブランド事業とO2Oビジネスを融合し、オムニチャネル展開を加速していく予定であることから、報告セグメントを変更いたしました。

①コンテンツ事業

コンテンツ事業につきましては、モバイル向け及びPC向けに古い・ゲームコンテンツ等を企画・制作・配信するビジネスを中心に展開しております。

フィーチャーフォン向け古いコンテンツにつきましては、新規コンテンツを各移動体通信事業者のフィーチャーフォン用公式サイトへ継続的に投入して参りましたが、フィーチャーフォン向け古いコンテンツは根強い人気があることから、当第2四半期連結会計期間より新規コンテンツ数を増加しております。

スマートフォン向け古いコンテンツにつきましては、各移動体通信事業者のスマートフォン用公式サイトに古いコンテンツを積極的に投入するとともに、LINE株式会社の運営する「LINE(登録ユーザー数が平成26年4月時点で世界4億人を誇るコミュニケーションアプリ)」との連携アプリである「LINE占い」や「GREE」への人気コンテンツ・ロジックの提供、世界で利用者が1億人を突破したニュースキュレーションアプリである「Flipboard」及び「Gunosy」へ古いロジック及びデータの提供、AppStore・GooglePlayStoreへ継続的にプレミアムモデルのネイティブアプリを新規に投入して参りました。

また、ゲームコンテンツにおきましては、平成27年1月に「男女ともに楽しめる」「新しい切り口のゲームを」「多言語対応・世界同時配信」をコンセプトとした独自ゲームブランド「OBOKAIDEM」の立ち上げを行いました。

第1弾として、世界約140カ国、多言語、AppStore・GooglePlayStore・FacebookCanvas・KindleStoreのマルチプラットフォーム展開パズルゲーム「BOOST BEAST (ブーストビースト)」が平成27年4月下旬から配信予定となっており、その他タイトルも含めて、年内複数タイトルがリリース予定となっております。また、平成26年10月にゲームコンテンツのパブリッシング事業に強みを持つ株式会社ブルークエストを子会社化しており、海外コンテンツの複数タイトルを国内でリリースしていく予定となっております。

PC向けコンテンツにつきましては、市場が縮小傾向にある中、継続的に良質な新規コンテンツを毎月1本投入し、効果的なプロモーションを行うことで、売上高及び利益額の維持に努めて参りましたが、若干の減少となりました。

海外での展開につきましては、中国ではSNSサイト「開心網」、ポータルサイト「QQ.com」「SOHU.com」、検索サービス「百度」への占いコンテンツの配信、韓国では韓国最大級の占いサイト「フォーチュンエイド」へ占いコンテンツの提供を行っております。また、韓国現地法人である株式会社MK B コリア (非連結子会社) にて、デジタルコンテンツ事業における素材の仕入れ・加工、及び韓国での配信網の拡大を図り、コンテンツ配信体制の整備を行っております。

スマートフォン向けコンテンツの売上高は着実に増加しており、引き続き、経営資源を投入し、スマートフォン対応に注力して参ります。

以上の結果、ゲームコンテンツの本格配信、並びに韓国でのコンテンツ配信体制の整備に伴う先行投資が増加したため、当第2四半期連結累計期間におけるコンテンツ事業の売上高は1,186百万円(前年同期比3.9%減)、営業利益は449百万円(前年同期比19.8%減)となりました。

②O2O事業

O2O事業につきましては、従来の「ブランド事業」にて行っていた複数販売チャネルを融合したオムニチャネル展開を加速するため、株式会社ギフトカムジャパンにて行っているO2Oビジネスとの連携を図って参りました。これに伴いセグメント名を「O2O事業」と改めました。女性向けコンテンツの更なる拡充を図るため、占い以外においてもF1・F2層女性へのアプローチを行うことを目的として、製品・サービス等の企画・制作、積極的なプロモーションに注力しております。また、以前より制作を進めておりましたARアプリやイベントアプリが完成したため、以降、売上高拡大を図って参ります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるO2O事業の売上高は4百万円(前年同期比32.6%減)、営業損失は58百万円(前年同期は営業損失33百万円)となりました。

③その他

その他の事業につきましては、当社グループの主力事業である占いコンテンツビジネスとの相乗効果が見込まれる電話占いサービスを展開しております。電話占いサービスの立ち上げに伴い開発した当社独自システムは、様々なサービスにおいて汎用性を持っており、平成26年4月からは同システムの受託ビジネスも展開しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるその他の事業の売上高は18百万円(前年同期比14百万円増)、営業損失は14百万円(前年同期は営業損失32百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は3,704百万円であり、前連結会計年度末と比較して42百万円増加しております。これは主に現金及び預金が51百万円増加したことによるものであります。負債合計は1,667百万円で前連結会計年度末と比較して75百万円増加しております。この主な要因は、1年内返済予定の長期借入金47百万円増加し、長期借入金81百万円増加し、未払法人税等が40百万円減少したことによるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末と比較して33百万円減少し2,037百万円となりました。これは主に利益剰余金が70百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成26年10月9日の「平成26年8月期 決算短信」に記載のとおり、平成27年8月期は新規事業の展開を更に加速させていく予定であり、通期業績予想に対して、実際の経営成績が上下する可能性が高く、決算発表時における業績予想の発表を見送ることとしております。新規事業展開の進捗と今期の業績に与える影響を精査の上、当該内容をふまえた連結業績予想の開示が可能となった時点で速やかに公表いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

(連結の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間より、当社の非連結子会社であった株式会社ギフトカムジャパンは、O2Oビジネスの本格展開に伴い重要性が増したため、連結の範囲に含めております。また、新たに株式を取得した株式会社ブルークエストを当第2四半期連結会計期間から連結の範囲に含めております。

(持分法適用の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間より、当社の非連結子会社であった株式会社MKBコリアは、韓国国内での業容拡大並びにその本格展開を予定しており、重要性が増したため、持分法適用の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成26年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,119,788	2,171,479
売掛金	523,475	499,366
商品	7,981	6,437
仕掛品	17,789	17,086
貯蔵品	1,164	1,428
繰延税金資産	13,972	11,307
その他	141,220	135,637
貸倒引当金	△4,143	△4,638
流動資産合計	2,821,248	2,838,104
固定資産		
有形固定資産	282,067	290,428
無形固定資産		
のれん	—	85,440
その他	61,532	103,449
無形固定資産合計	61,532	188,889
投資その他の資産		
関係会社株式	178,780	78,122
敷金及び保証金	99,276	99,148
その他	190,973	176,645
貸倒引当金	△1,494	△549
投資その他の資産合計	467,535	353,366
固定資産	811,136	832,684
繰延資産	29,780	33,926
資産合計	3,662,165	3,704,714
負債の部		
流動負債		
買掛金	32,569	41,974
1年内返済予定の長期借入金	712,876	760,068
未払費用	123,284	110,248
未払法人税等	156,473	115,972
その他	45,406	36,366
流動負債合計	1,070,610	1,064,631
固定負債		
長期借入金	521,076	602,748
固定負債合計	521,076	602,748
負債合計	1,591,686	1,667,379

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成26年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年2月28日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	451,459	451,459
資本剰余金	348,454	348,454
利益剰余金	1,373,179	1,303,031
自己株式	△114,055	△114,055
株主資本合計	2,059,038	1,988,890
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	—	16,935
その他の包括利益累計額合計	—	16,935
新株予約権	11,440	17,043
少数株主持分	—	14,466
純資産合計	2,070,478	2,037,335
負債純資産合計	3,662,165	3,704,714

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年2月28日)
売上高	1,245,601	1,209,792
売上原価	404,089	436,402
売上総利益	841,512	773,390
販売費及び一般管理費	504,573	557,150
営業利益	336,938	216,240
営業外収益		
受取賃貸料	2,142	2,080
その他	2,984	4,104
営業外収益合計	5,126	6,185
営業外費用		
支払利息	4,473	4,518
開業費償却	3,722	4,606
持分法による投資損失	—	21,824
その他	2,621	1,340
営業外費用合計	10,817	32,289
経常利益	331,247	190,136
特別利益		
新株予約権戻入益	540	2,689
特別利益合計	540	2,689
特別損失		
有形固定資産売却損	—	264
特別損失合計	—	264
税金等調整前四半期純利益	331,787	192,561
法人税、住民税及び事業税	153,340	109,710
法人税等調整額	△154	△1,098
法人税等合計	153,186	108,612
少数株主損益調整前四半期純利益	178,601	83,949
少数株主損失(△)	—	△6,005
四半期純利益	178,601	89,954

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年2月28日)
少数株主損益調整前四半期純利益	178,601	83,949
その他の包括利益		
持分法適用会社に対する持分相当額	—	7,237
その他の包括利益合計	—	7,237
四半期包括利益	178,601	91,186
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	178,601	97,191
少数株主に係る四半期包括利益	—	△6,005

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年9月1日 至 平成26年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年9月1日 至 平成27年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	331,787	192,561
減価償却費	20,583	27,881
のれん償却額	—	3,929
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1,035	△550
受取利息及び受取配当金	△621	△474
支払利息	4,473	4,518
持分法による投資損益 (△は益)	—	21,824
新株予約権戻入益	△540	△2,689
売上債権の増減額 (△は増加)	△97,749	35,384
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△9,955	1,983
仕入債務の増減額 (△は減少)	4,085	1,894
未払費用の増減額 (△は減少)	△25,479	△13,832
その他	30,502	△35,918
小計	256,051	236,511
利息及び配当金の受取額	649	474
利息の支払額	△5,645	△5,733
損害賠償金の受取額	22,607	—
法人税等の支払額	△131,310	△150,090
営業活動によるキャッシュ・フロー	142,351	81,162
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△29,617	△19,849
有形固定資産の売却による収入	—	115
無形固定資産の取得による支出	△4,578	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△58,942
関係会社株式の取得による支出	△40,600	—
敷金及び保証金の差入による支出	△500	—
敷金及び保証金の回収による収入	2,920	500
貸付金の回収による収入	27,789	13,411
投資活動によるキャッシュ・フロー	△44,586	△64,764
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	—	500,000
長期借入金の返済による支出	△342,254	△378,636
ストックオプションの行使による収入	8,211	—
配当金の支払額	△124,377	△128,076
財務活動によるキャッシュ・フロー	△458,419	△6,712
現金及び現金同等物に係る換算差額	103	369
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△360,550	10,055
現金及び現金同等物の期首残高	1,713,602	2,119,788
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	7,866	41,635
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,360,917	2,171,479

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年9月1日至平成26年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	コンテンツ 事業	O2O事 業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,234,802	6,625	1,241,428	4,173	1,245,601	—	1,245,601
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,234,802	6,625	1,241,428	4,173	1,245,601	—	1,245,601
セグメント利益又は セグメント損失(△)	559,624	△33,922	525,701	△32,208	493,493	△156,554	336,938

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、化粧品の販売、電話占い事業を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△156,554千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△156,810千円が含まれております。全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成26年9月1日至平成27年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	コンテンツ 事業	O2O事 業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,186,898	4,311	1,191,210	18,582	1,209,792	—	1,209,792
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	156	156	—	156	△156	—
計	1,186,898	4,467	1,191,366	18,582	1,209,948	△156	1,209,792
セグメント利益又は セグメント損失(△)	449,014	△58,283	390,730	△14,177	376,552	△160,312	216,240

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、化粧品の販売、電話占い事業を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△160,312千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△159,605千円が含まれております。全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の「コンテンツ事業」、及び「ブランド事業」の2区分から、「コンテンツ事業」及び「O2O事業」の2区分に変更しております。これは、主にブランド事業とO2Oビジネスを融合し、オムニチャネル展開を加速していく予定であることから、報告セグメントを変更いたしました。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第2四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「コンテンツ事業」セグメントにおいて、株式会社ブルークエストを株式取得により連結子会社化しております。このことにより、当第2四半期連結累計期間におけるのれんの増加額は、75,190千円であります。